「水林海岸防備林を松くい虫から再生する会」
森林ボランテイア活動について（報告）

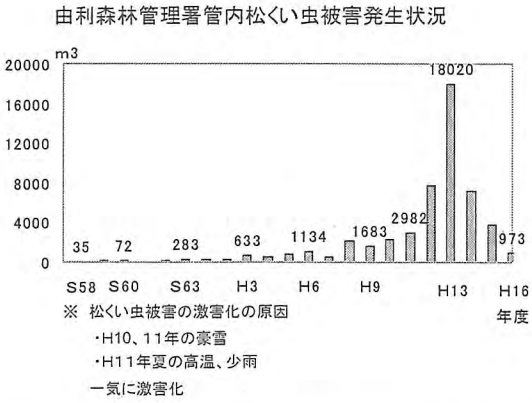
水林海岸防備林を松くい虫から再生する会
会長　山田多喜夫

1　はじめに

私達が活動の場としている水林国有林は、砂丘造林の歴史をたどれば江戸時代にさかのぼることとなります。

この地は、日本海からの飛砂により１本の植物さえ生育しない不毛の地でした。海岸林に広がる松林は、江戸時代から植林が始まり先人が難儀をして育てた林です。この地域にあっては、飛砂防備は住民の願いでもあり生活を支えるには欠かすことのできない暮らしに潤いを与えてきた重要な松林です。

水林地域においては、昭和５８年に国有林内で松くい虫被害が確認され、平成１３年にピークに達しその被害は１万８千 m3 に及んだと聞います。



これまで由利森林管理署において、伐倒・破砕処理・薬剤散布により多額の経費を投じ松くい虫被害対策を講じてきましたが、被害の拡大は一向にしずまらず海岸林が荒廃し危機的な状況になり、松くい虫防除と森林の再生は由利地域の大きな課題です。

このような現状から一市民として、先人が難儀をして植え育てきた林、そして長年世話になってきた土地に恩返しをしたいとの一念から「由利森林管理署の手の届かないところを市民の力で補えないか」と考えたのが「水林海岸防備林を松くい虫から再生する会」結成のきっかけです。

2　これまでのボランティアの結成とその活動について

（1）　結成・組織の現状

「水林海岸防備林を松くい虫から再生する会」は平成１７年５月、被害林の再生を図るため地域住民と一体となったボランティアによる活動を効果的に行うことを目的とし

て林野ＯＢ、団体職員、公務員、市議会議員、自営業、農業、他ボランティア団体所属の人たち等３６人で結成しました。現在は４２名の会員になっています。

「水林海岸防備林を松くい虫から再生する会」設立総会（2）

（２）活動の状況

当会は水林国有林を活動フィールドとして、春と秋のクロマツの植樹会、補植、下刈、市内ボランティア団体と連携した植樹の実施や市内小学校の森林環境教育、海岸林内の清掃活動など広範囲になってきています。

○ 植樹会等の活動

独自に計画	（1） クロマツ被害海岸林の再生 ① 春、秋 ② 補植、下刈 （2） 海岸林の清掃
地域連携	（1） 植樹会 ① 地域4団体共同企画植樹会 （「水林出会い・ふれあいの森」再生植樹会 ② 環鳥海「白砂青松」復活PG植樹会 （2） 森林環境教育 「遊々の森」自然体験学習会

松くい虫被害森林の再生植樹（春）

再生植樹箇所の下刈

海岸林内の清掃

（３）他団体等との連携

また、平成１５年度に海岸林の健全化や保護或いは地域の環境維持・管理を実行するために地元ボランティア、地元自治体等が構成メンバーとなって設立された、環鳥海「白砂青松」復活プロジェクト推進協議会の会員となり、１７年度から植樹、保育活動等に積極的に参加しています。

「白砂青松」復活プロジェクト推進協議会による植樹

特に力をいれているのが、当会を含む市内ボランティアの木を植えるひとびとの会、緑をそだてる市民の会、緑を守る会の４団体で「水林出会い・ふれあいの森を再生する会」を結成し、森林管理署、由利本荘市、ゆり養護学校、水林新生園、市内小学校と連携しながら「水林出会い・ふれあいの森」再生植樹会を計画し、ケヤキ、ナラなどの郷土樹種を植栽する植樹会を実施しています。

「水林出会い・ふれあいの森」再生植樹（1）

「水林出会い・ふれあいの森」再生植樹（2）

このほか、平成１８年１１月「森・川・海」のフィールドを超えた連携を進めるために設立された「由利地域森・川・海の保全ネットーワーク」にも参加するなど、他団体との連携を図っております。

（４）　市民へのＰＲ活動

こうした活動が市民へ広く浸透させていくためには、各種行事やボランティア募集のＰＲが重要です。このため、一般紙、テレビ及び由利本荘市広報への投げ込みなどマスコミ対策等を積極的に実施しています。

その結果、１８年度は①春の植樹活動がＮＨＫニュース、秋田魁新報、林業新聞②「遊々の森」自

春の植樹活動

海岸線の松林再生を

由利本荘市　市民ら1000本植樹

「水林出会い・ふれあいの森」植樹活動

海岸線の松林再生を

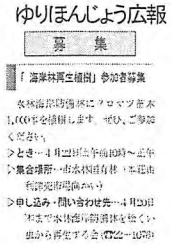
由利本荘市　市民ら1000本植樹

「遊々の森」で自然体験学習

結果小の児童が
コナラなど植樹

由利本荘市

ゆりほんじょう広報


募　集

「海岸林再生植樹」参加者募集

然体験学習会が秋田魁新報③「水林出会い・ふれあいの森」植樹活動がＡＫＴニュース、秋田魁新報で報道され、地域活動の先訓を担っているなどの評価を得ております。

さらには、植樹会においては「森林再生植樹会」ののぼりを立てＰＲに努めています。

今後も市民に対するＰＲ活動を充実させ森林の大切さを理解していただき、より多くの市民やボランティア団体が一体となって集える活動をしていきたいと思っています。

森林再生植樹会のぼり

（５）　活動資金の確保

ボランティア活動を行っていく上においては、活動資金の確保が大事です。活動資金は会員の会費、各種助成金、寄付金です。

また、活動フィールドの提供、道具貸与など物的な支援を森林管理署から受け活動を実施しているところです。

助成金については、平成１８年度に「遊々の森」において実施した鶴舞小５、６年生を対象とした自然体験学習では、社団法人国土緑化推進機構が小・中学生の森林環境教育を促進するため実施している「１７年度学校林を活用した森林環境教育促進事業」の助成を受けました。

「遊々の森」で自然体験学習（1）
どんぐり拾い

「遊々の森」で自然体験学習（2）
植樹

また、水林海岸防備林において実施した秋の植樹活動では、全労済が「自然との共生」をテーマに実施している「２００６全労済環境活動助成」の助成を受けました。

松くい虫被害森林の再生植樹（秋）（1）

松くい虫被害森林の再生植樹（秋）（2）

先に述べたように、様々な団体等からの支援を受け活動をしているところですが、今後も継続した活動とするためには、助成金等の制度を上手に活用しながら、会の自立を目指した取組の強化が必要です。

（６）今後の課題としては、

①自立して活動できる体制強化

まだ結成して間もないこともあり、行政の支援を受けている部分が多いので、ボランティア団体として自立し活動することを目標に会報発行などにより会の充実を図ることが必要です。

②団塊世代層を含む幅広い会員の確保

組織の会員構成の年齢構成を分析すれば、ボランティアということから退職をされた生活時間に余裕のできた年配の層が多いので、今後の活動を長く継続してくためには幅広い会員の募集拡大に努めることが必要です。

③指導・技術者の養成

今後、植樹終了後成林までの保育等の実行をしていくためには指導、技術者の養成も検討していかなければならないと考えています。

３　おわりに

平成１９年は秋田わか杉国体、更に、平成２０年には全国植樹祭が開催されます。

松くい虫の被害林再生に官民一体で取り組んでいる姿を全国の方々に見ていただき林業県秋田を全国にＰＲすることも重要です。

今後も、自然とふれあい、汗を流し、自身の身体で実感し森づくりができることを楽しみながら市民やボランティアとの連携を一層深め、森林環境の充実に努めて参りたいと考えています。